



資料3

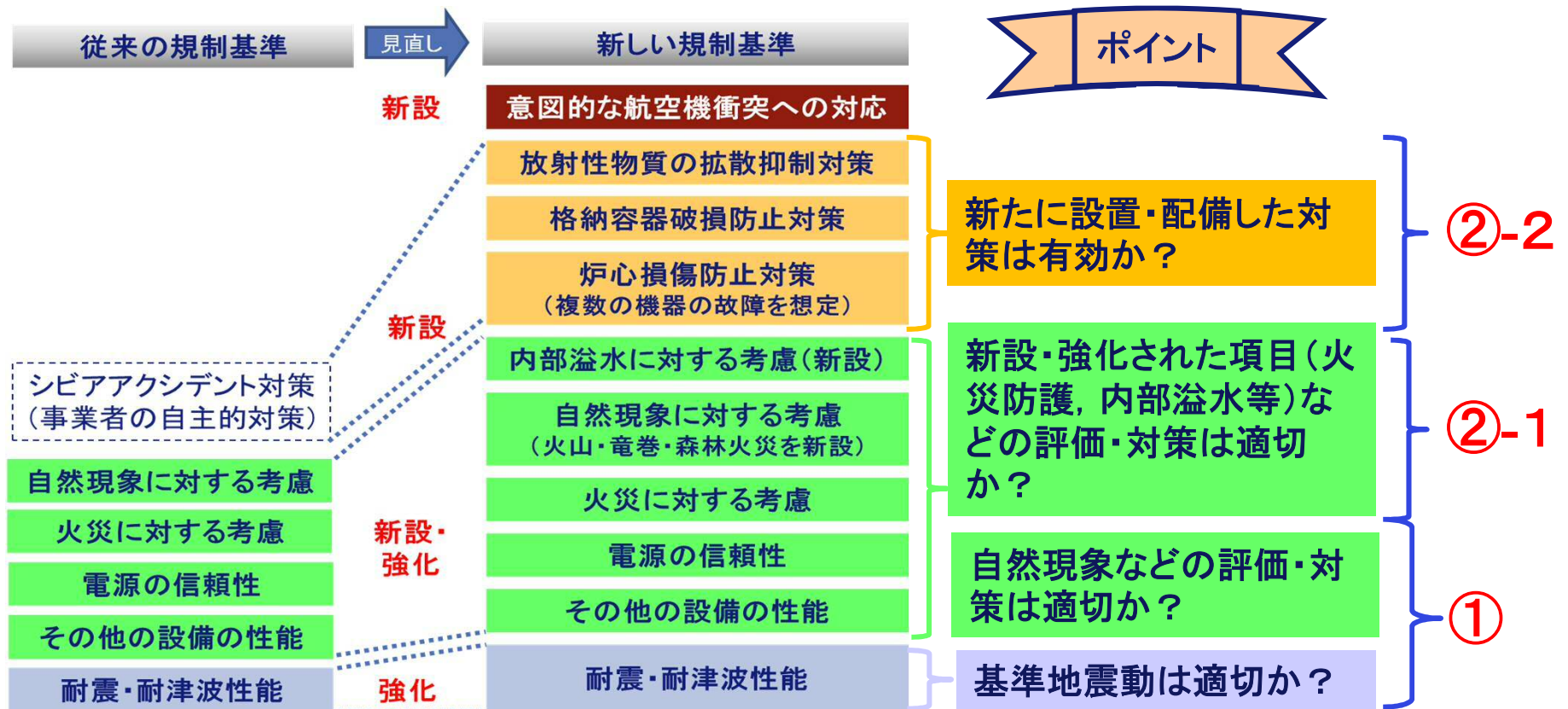
島根原子力発電所2号機 新規制基準への 適合性審査の状況等について

平成27年10月13日

中国電力株式会社

審査の全体像

- 平成25年12月25日，島根2号機の新規制基準への適合性確認を申請。平成27年10月9日までに，66回の審査会合が開催されている。
- 審査される分野は，大きく①地震・地盤・津波といった外部要因に関するものと②プラント関係の2分野に分かれる。
- 事前にヒアリングを実施し，その後，審査会合が公開の場で開催されている。

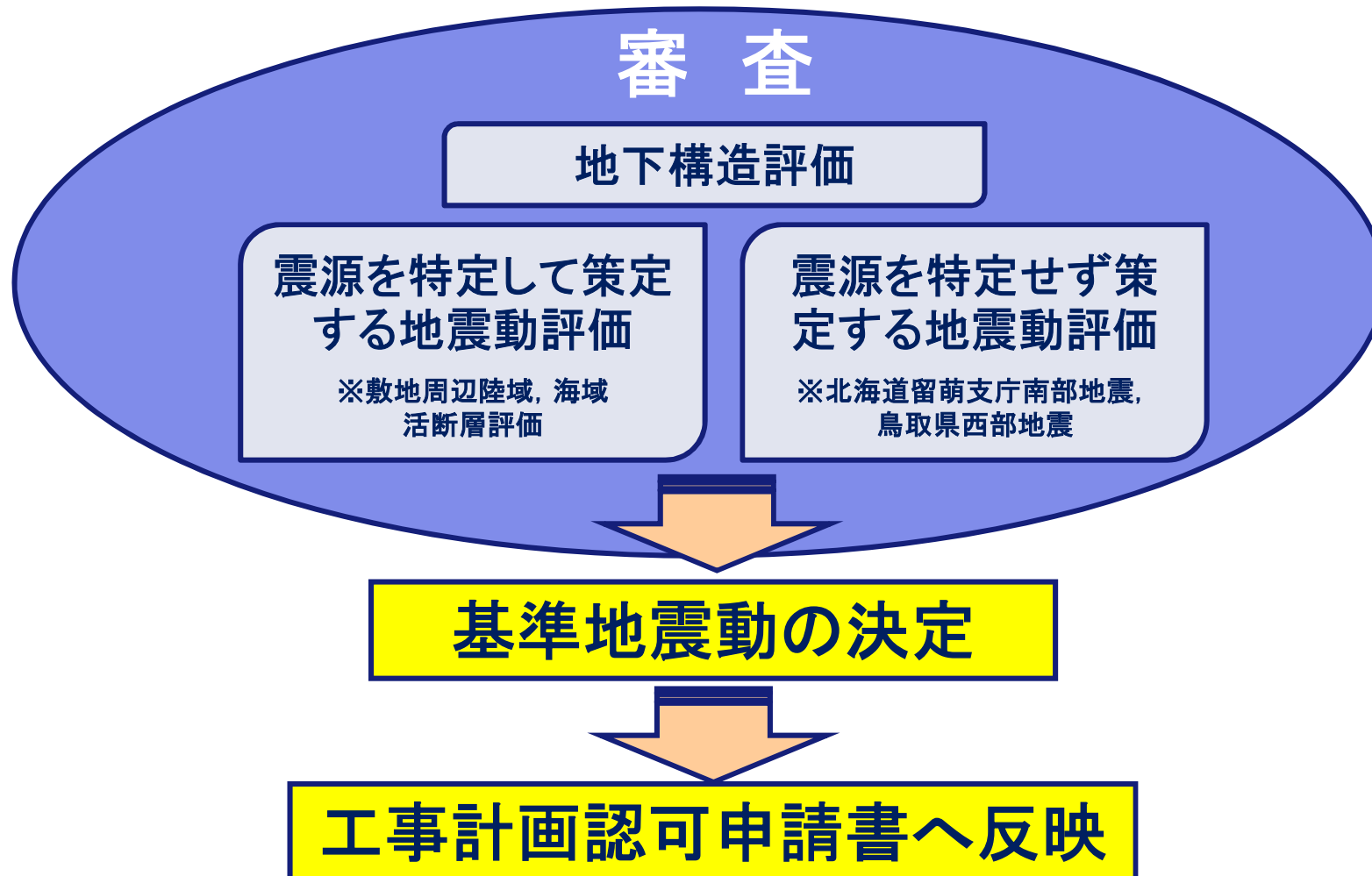


審査状況

①地震・地盤・津波関係

審査の流れ(①地震・地盤・津波関係)

- 敷地内の地下構造評価, 震源を特定して策定する地震動および震源を特定せず策定する地震動をそれぞれ評価・審査された上で, 基準地震動が決定される。基準地震動が決まれば, 設備の詳細設計(工事計画認可申請)に反映。



①地震・地盤・津波関係の審査状況

- 地下構造評価，震源を特定せず策定する地震動に関する審査は終了。
- 今後，宍道断層等の敷地周辺の活断層評価に関する審査を経て，基準地震動や耐震設計方針に関する審査が行われる。

<p>地下構造評価 【審査済】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地震観測記録および物理探査等にもとづき，敷地内の地下構造評価を行い，基準地震動評価に用いる地下構造モデルを設定したことを説明。
<p>震源を特定せず 策定する地震動 【審査済】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国が検討対象としてガイドラインで示している過去に起きた16地震のうち，2000年鳥取県西部地震，2004年北海道留萌支庁南部地震による揺れを考慮することを説明。
<p>震源を特定して 策定する地震動 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 敷地周辺陸域および海域で実施した追加地質調査結果を踏まえた宍道断層等の評価長さを説明。
<p>敷地の地質・ 地質構造 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 敷地内のシーム（薄い粘土層）について，少なくとも後期更新世（約12，13万年前）以降活動していないことを説明。

当社は、原子力規制委員会の現地調査(平成27年2月)等での指摘事項を踏まえ、宍道断層の両端部付近において、更なる追加地質調査を実施していましたが、調査の結果、宍道断層の東端、西端の評価は妥当であると考えられることを改めて説明しました。(7/31 第63回目審査会合)
原子力規制委員会からは、今後、宍道断層西端付近について再度、現地調査を行う方針が示されています。(9/9 第66回目審査会合)

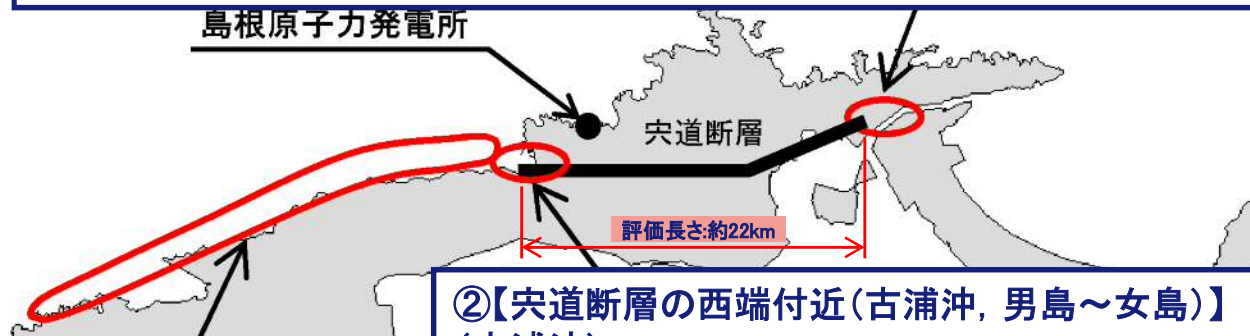
①【宍道断層の東端付近(下宇部尾東, 森山)】

(下宇部尾東)

- ・ボーリング調査の結果、北東の谷に向かう断層は認められない。
- ・はぎ取り調査の結果、地質分布に不連続はなく断層は認められない。
- ・ボーリング調査の結果、貫入岩及び貫入境界付近に、貫入後の断層活動は認められない。

(森山)

- ・露頭観察、ボーリング、トレンチ調査等の結果、断層に後期更新世以降の活動は認められない。



島根原子力発電所

評価長さ:約22km

②【宍道断層の西端付近(古浦沖, 男島~女島)】

(古浦沖)

- ・音波探査、海底面調査等の結果、海陸境界付近に断層は認められない。

(男島~女島)

- ・地表地質踏査、ボーリング調査等の結果、断層は認められない。
- ・女島地点における追加ボーリングの結果、文献断層に対応する断層は認められない。

③【古浦沖~大田沖断層】

- ・音波探査の結果、断層活動を示唆する反射面は確認されない。

青字: 追加調査結果(第27回目審査会合報告)

赤字: 更なる追加調査結果(第63回目審査会合報告)

①地震・地盤・津波関係 主要項目の審査状況

主要な審査項目		審査状況	
地震・地盤・津波関係	地震	敷地及び敷地周辺の地下構造	実施済
		震源を特定して策定する地震動	実施中
		震源を特定せず策定する地震動	実施済
		基準地震動	未実施
		耐震設計方針	未実施
		敷地の地質・地質構造	実施中
		地盤・斜面の安定性	未実施
	津波	基準津波	未実施
		耐津波設計方針	未実施

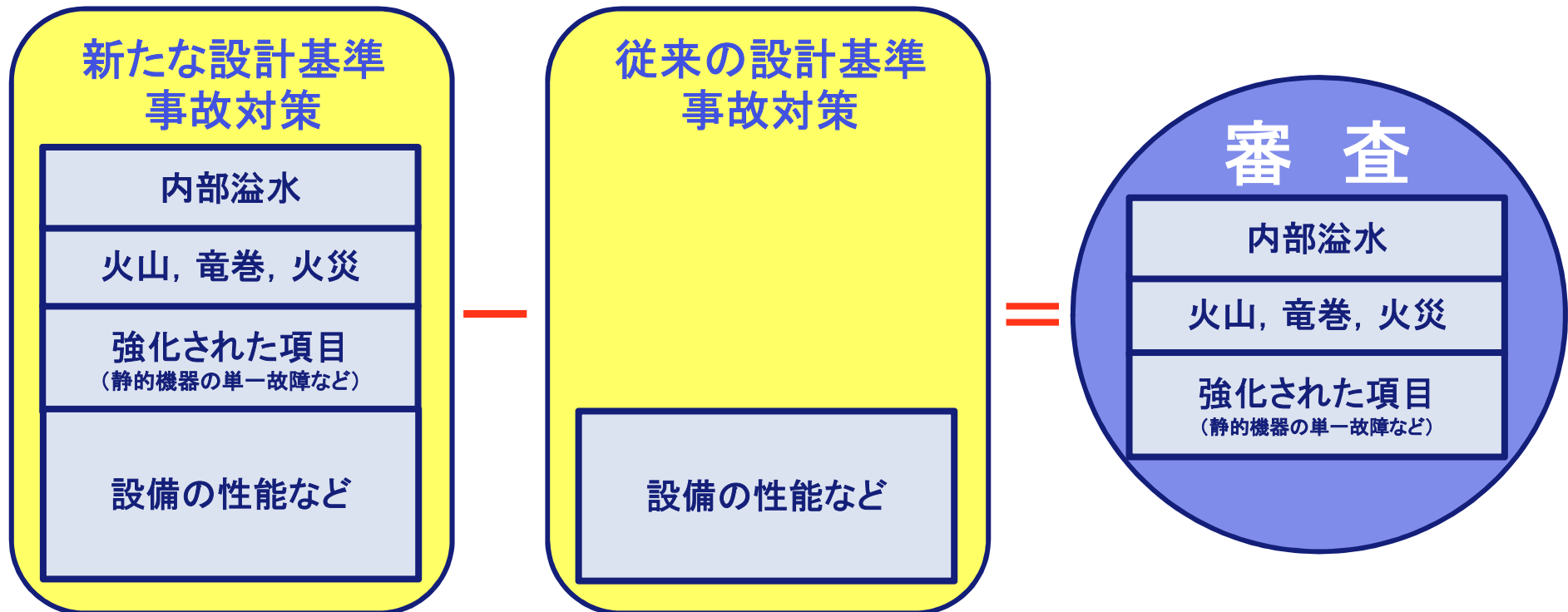
審査状況

②プラント関係

8/6の審査会合において、プラント関係の審査については、当面の間、東京電力 柏崎刈羽原子力発電所6・7号機を集中して審査するとの方針が示され、現在、この方針に沿って審査が進められています。

審査の流れ(プラント関係 ②-1. 設計基準事故対策)

- プラント関係の審査は、大きく「**設計基準事故対策(事故を起こさない対策)**」と「**重大事故対策(事故が起こった場合の対策)**」に分別される。
- 「**設計基準事故対策**」は、従来の基準から強化された項目及び新たに新設された自然現象といった外部要因に対する影響評価・対策について審査される。
代表例： 火災防護対策の強化
火山(影響評価, 対策), 竜巻(影響評価, 対策)
内部溢水



プラント関係 ②-1. 設計基準事故対策の主な審査状況

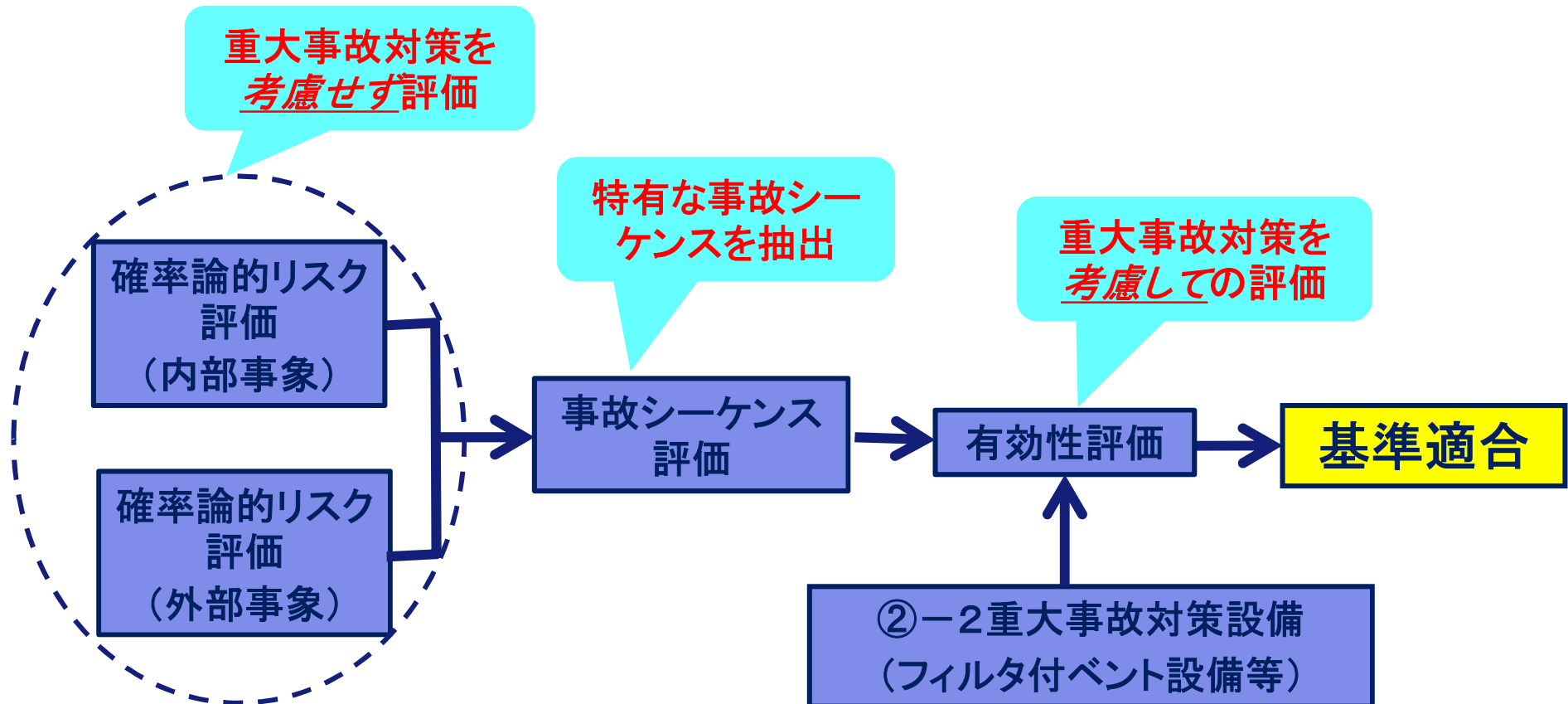
- ほとんどの項目が審査中。いずれも規制委員会からのコメントを踏まえ、順次、より詳細な説明(コメント回答)を行っているところ。

<p>内部溢水 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原子炉施設内で溢水が発生した場合でも、防護対策により、安全上重要な設備に影響しないことを説明。
<p>火山・竜巻・火災 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 敷地において考慮する火山灰等の降下火砕物の堆積厚さ等について説明。 ■ 基準竜巻, 設計竜巻の妥当性, 竜巻影響評価に用いるモデルの妥当性について説明。 ■ 発電所外部および内部の設備(重大事故対策を除く)による火災の影響評価について, 安全上重要な設備に影響を及ぼさないことを説明。
<p>強化された項目 (静的機器の単一故障等) 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 静的機器の単一故障や原子炉冷却材圧力バウンダリ, 共用設備等のテーマについて, 安全機能や健全性を維持できることを説明。 ■ 通信連絡設備や監視測定設備について, 事故発生時にも多様化や代替設備の配備により対応できることを説明。 ■ 運転員の誤操作防止対策や, 事故に備えた避難通路確保の考え方等を説明。

審査の流れ(プラント関係 ②-2. 重大事故対策)

- 「重大事故対策」は、主に福島第一の事故後に新たに配備・設置した設備や手順が有効に機能するかが審査される。

代表例： 送水車, 高圧発電機車などの可搬型設備
フィルタ付ベント設備
緊急時対策所



プラント関係 ②-2. 重大事故対策の主な審査状況

- すべての項目が審査中。いずれも規制委員会からのコメントを踏まえ、順次、より詳細な説明(コメント回答)を行っているところ。

<p>確率論的リスク 評価(PRA)・ 事故シーケンスの 選定 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラント内部の原因(機器故障や人的要因等)および外部の原因(地震・津波等)によって引き起こる事象を対象としたPRAについて説明。 ■ PRAの結果を踏まえ、重大事故対策の有効性を確認するために選定した事故シーケンスを説明。
<p>有効性評価 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 選定した事故シーケンス(運転中, 停止中, 燃料プールにおける事故シナリオ)について, 重大事故等対策が有効に機能することを説明。 ■ 有効性評価に用いている6種類の解析コードが妥当であることを説明。
<p>重大事故 対処設備 【審査中】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ フィルタ付ベント設備の概要(設計方針, 仕様, 性能等)や運用方法(ベント実施の判断基準等)について説明。 ■ 緊急時対策所が万一の事故発生時にも有効に機能することを説明。 ■ 中央制御室について, 必要な資機材の配備や放射線防護装置等の設置により, 一定期間対応可能なことを説明。

②プラント関係 主要項目の審査状況

主要な審査項目		審査状況	
プラント関係	重大事故対策	確率論的リスク評価, 事故シーケンスの選定	実施中
		有効性評価	実施中
		解析コード	実施中
		制御室	実施中
		緊急時対策所	実施中
		フィルタ付ベント設備	実施中
	設計基準 事故対策	水素爆発防止対策	実施中
		内部溢水	実施中
		火災	実施中
		竜巻(影響評価・対策)	実施中
		火山(影響評価・対策)	実施中
		静的機器単一故障	実施中
		保安電源設備	未実施
		誤操作防止, 安全避難通路, 安全保護設備	実施中
		原子炉冷却材圧カバウンダリ	実施中
		通信連絡設備	実施中
		監視測定設備	実施中
		共用設備	実施中

〈参考〉 審査会合の開催実績

島根2号機 審査会合の開催実績（1）

○ これまでに計66回の審査会合が開催（平成27年10月9日現在）

	開催年月日	議 題
1	平成26年 1月16日	申請の概要について
2	平成26年 1月28日	申請内容に係る主要な論点について
3	平成26年 2月20日	敷地周辺陸域の活断層評価について
4	平成26年 3月19日	敷地周辺海域の活断層評価について
5	平成26年 4月 9日	敷地周辺海域の活断層評価について(コメント回答)
6	平成26年 4月16日	地下構造評価について
7	平成26年 5月 1日	敷地周辺陸域・海域の活断層評価について(コメント回答)
8	平成26年 6月27日	震源を特定せず策定する地震動について
9	平成26年 7月22日	確率論的リスク評価(PRA)について
10	平成26年 8月 5日	静的機器の単一故障に係る設計について
11	平成26年 8月28日	格納容器フィルタベント系について
12	平成26年 9月 5日	地下構造評価について(コメント回答)
13	平成26年 9月11日	格納容器フィルタベント系について
14	平成26年 9月30日	確率論的リスク評価について
15	平成26年10月 2日	事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

島根2号機 審査会合の開催実績（2）

15

	開催年月日	議 題
16	平成26年10月14日	重大事故等対策の有効性評価
17	平成26年10月16日	重大事故等対策の有効性評価
18	平成26年10月23日	外部火災の影響評価について
19	平成26年10月30日	内部溢水の影響評価について
20	平成26年11月 6日	外部火災の影響評価について
21	平成26年11月13日	可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて
22	平成26年11月20日	重大事故等対策の有効性評価
23	平成26年11月21日	地下構造評価について(コメント回答)
24	平成26年12月 4日	火災防護について
25	平成26年12月 9日	重大事故等対策の有効性評価
26	平成27年 1月15日	重大事故等対策の有効性評価
27	平成27年 1月16日	敷地周辺陸域の活断層評価について(コメント回答)
28	平成27年 1月27日	重大事故等対策の有効性評価
29	平成27年 2月 3日	竜巻影響評価について
30	平成27年 2月10日	緊急時対策所について

島根2号機 審査会合の開催実績（3）

	開催年月日	議 題
31	平成27年 2月19日	誤操作の防止, 安全避難通路等, 安全保護回路について
32	平成27年 2月24日	原子炉冷却材圧力バウンダリ
33	平成27年 2月26日	格納容器フィルタベント系(主ライン・弁構成)について
34	平成27年 3月 3日	原子炉格納容器の限界温度・圧力に関する評価結果
35	平成27年 3月 5日	静的機器の単一故障に係る設計について(コメント回答)
36	平成27年 3月 6日	地下構造評価について(コメント回答)
37	平成27年 3月17日	重大事故等対策の有効性評価
38	平成27年 3月19日	外部火災の影響評価について(コメント回答)
39	平成27年 3月24日	通信連絡設備について
40	平成27年 3月31日	竜巻影響評価について(コメント回答)
41	平成27年 4月 2日	監視設備および監視測定設備について
42	平成27年 4月 7日	格納容器フィルタベント系(主ライン・弁構成・運用方法等)について
43	平成27年 4月 9日	竜巻影響評価(フジタモデルの適用)について
44	平成27年 4月21日	共用に関する設計上の考慮について
45	平成27年 4月24日	敷地の地質・地質構造, 現地調査(敷地の地質・地質構造)(コメント回答)

島根2号機 審査会合の開催実績（4）

	開催年月日	議 題
46	平成27年 5月12日	重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて
47	平成27年 5月15日	敷地周辺海域の活断層評価について(コメント回答)
48	平成27年 5月21日	内部溢水の影響評価について(コメント回答)
49	平成27年 5月28日	格納容器フィルタベント系について(コメント回答)
50	平成27年 6月 2日	誤操作の防止, 安全避難通路等, 安全保護回路について(コメント回答)
51	平成27年 6月 9日	重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて
52	平成27年 6月11日	中央制御室について
53	平成27年 6月12日	火山影響評価について
54	平成27年 6月19日	敷地周辺陸域の活断層評価について(コメント回答)
55	平成27年 6月23日	重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて
56	平成27年 6月30日	確率論的リスク評価について(コメント回答)
57	平成27年 7月 2日	確率論的リスク評価について(コメント回答)
58	平成27年 7月 9日	外部事象の考慮について
59	平成27年 7月14日	確率論的リスク評価について(コメント回答)
60	平成27年 7月16日	確率論的リスク評価について(コメント回答)

島根2号機 審査会合の開催実績（5）

	開催年月日	議 題
61	平成27年 7月21日	格納容器フィルタベント系について(コメント回答)
62	平成27年 7月28日	内部火災の防護について(コメント回答)
63	平成27年 7月31日	敷地周辺陸域および海域の活断層評価について(コメント回答)
64	平成27年 8月 4日	水素爆発防止対策について
65	平成27年 8月 6日	内部火災の防護について(コメント回答)
66	平成27年 9月 9日	敷地周辺陸域の活断層評価について(コメント回答)

島根原子力発電所 1号機の 営業運転終了および廃止措置について

島根原子力発電所 1号機の営業運転終了について

20

島根原子力発電所1号機は、平成27年4月30日をもちまして、営業運転を終了しました。

建設計画の立ち上げから半世紀にわたり、ご理解・ご協力を賜りました多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

島根原子力発電所の運営につきましては、今後の1号機の廃止措置を含め、安全確保を最優先に取り組んでまいります。

〈島根原子力発電所1号機のあゆみ〉

建設計画申し入れ	昭和41年11月17日
営業運転開始	昭和49年 3月29日
営業運転期間	41年1か月

〈島根原子力発電所1号機の概要〉

出力	46万kW
総発電電力量	約1,061.9億kWh
型式	沸騰水型(BWR)



島根原子力発電所1号機(手前右)

廃止措置について

原子力発電所の廃止措置については、あらかじめ廃止措置作業の計画(廃止措置計画)を策定し、国の認可を受けて実施します。

当社は現在、島根原子力発電所1号機の廃止措置計画について検討を行っているところです。

廃止措置は、大きく分けて「洗う」「待つ」「解体する」の3つの工程があり、約30年をかけて行います。すべての工程において、放射性物質の「閉じ込め」や放射線の「遮へい」に最も重点を置き、安全確保を最優先に取り組んでまいります。

